

新規開講 三菱UFJ環境財団寄附講義(H30~32)

総合科目Ⅲ(全学3-4年生向)

・金曜日3限(12:15-13:30)講義室2C404

開設母体:生物学類

- | |
|---|
| ①「地球環境変動と地球規模課題の科学論」 講義・春AB ・1単位 |
| ②「環境変動影響と持続可能社会構築の科学技術論」 講義・秋AB・1単位 |
| ③「生命環境科学実習A」 実験室・フィールドセンターにおける実習・春C・1単位 |
| ④「生命環境科学実習B」 国内研修・海外研修・秋C・1単位研修申請書
・事前レポートを提出し、その採択者。実施要領に基づき旅費・渡航費の全額もしくは一部を支援する。・実施時期は限定しない。 |
| 「科目外企画」 ・国際シンポジウム ・国内シンポジウム ・公開フォーラム
・単位なし、参加費などの支援あり |

③「実習A」と④「実習B」について

- ・受講対象：三菱UFJ環境財団寄附講義の「講義科目」の受講者
- ・受講条件：実習A（実験）と実習B（研修）の重複受講は基本的に不可。

連絡先:生物学類・鈴木石根教授(iwanes6803@biol.tsukuba.ac.jp)

三菱UFJ環境財団は、三菱UFJフィナンシャル・グループの社会貢献活動および環境への取り組みの一翼を担う財団として、環境の保全及び環境教育を通じて公共の福祉の増進に寄与することを目的に、環境保全整備事業、環境教育事業、体験活動事業等の幅広い活動を行っています。当財団は、昭和46年創設の（財）サンワみどり基金と昭和50年創設の（財）東海財団とが統合して、平成15年4月にUFJ環境財団として発足。平成18年4月に三菱UFJ環境財団に名称変更し、平成24年4月には公益財団法人としてスタートしました。

名称

公益財団法人 三菱UFJ環境財団

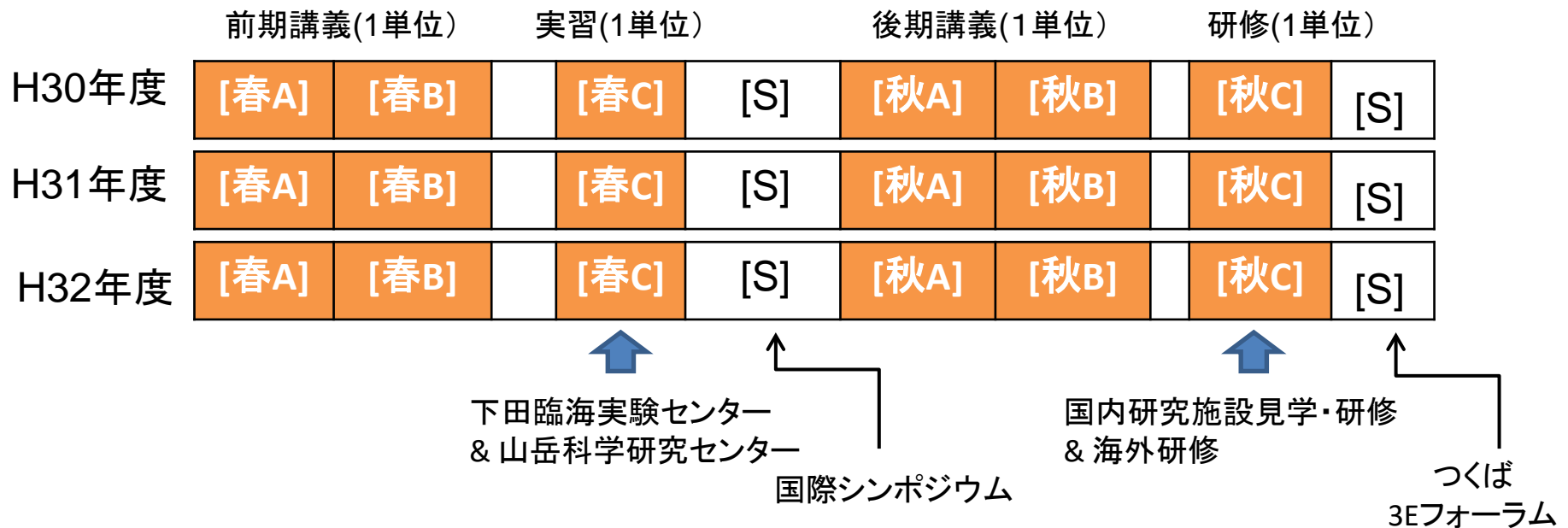
英語表記：The Mitsubishi UFJ Environment Foundation

大学向け寄付講座の開講

三菱UFJ環境財団の寄付講座は、1994年(平成6年度)から開講しているもので、日本の環境教育や研究が欧米に比べ立ち後れているとの認識のもと、次世代を担う学生たちに環境問題への基本的な理解を深めてもらうことを目的としています。

これまで、上智大学、同志社大学、一橋大学、東京農業大学、名古屋大学、上智大学、東京学芸大学、神戸大学で順次開講して来ました。学生はもちろん一般市民の皆様方にも公開シンポジウム等にご参加いただいております。

総合科目Ⅲ (全学3-4年生向・金曜日3限(12:15-13:30)講義室2C404)



主要テーマ

- ・気候・環境変動・海洋科学
- ・CO₂問題とエネルギー・水・食料の安全保障
- ・生物多様性、生物の環境応答機構と生物進化
- ・環境問題の地域課題(ごみ・リサイクル・水資源)
- ・環境医学・健康影響・感染症・大気汚染PM2.5
- ・人類の未来を約束する環境科学と環境技術に関する総合科学

実行体制:

・生物学類 (和田洋学類長)

三菱UFJ環境財団寄附講義実行委員会
鈴木石根教授(委員長)

連絡先: 鈴木石根教授
(iwanes6803@biol.tsukuba.ac.jp)

三菱UFJ環境財団寄附講義(2018年度～2020年度)

① 「地球環境変動と地球規模課題の科学論」

総合科目Ⅲ (全学3・4年次対象) 1単位 春学期A Bモジュール 金曜3時限 (12:15-13:30)

回	日付	形態	内容	担当	備考
1	2018年 4/13	講義	寄附講義科目受講のための総合ガイダンス	鈴木石根 白岩善博 (筑波大学)	総合コーディネーター
2	4/20	講義	国連の地球規模課題(Sustainable Developmental Goals: SDGs)の概説と取り組みの国際的現状	白岩 善博 (筑波大学)	TV/ビデオ授業を駆使する。
3	4/27	講義	地球規模の気候・海洋環境変動の科学	松下文経 (筑波大学)	
4	5/11	講義	海洋酸性化の仕組みとその影響解析の科学	和田茂樹 (筑波大学)	
5	5/18	講義	海洋環境変動による生理学および生態学的変動の科学 —海洋動物	Sylvain Agostini (筑波大学)	
6	5/25	講義	海洋環境変動による生理学および生態学的変動の科学 —海洋植物	鈴木石根 (筑波大学)	
7	6/1	講義	生物多様性・森林の遺伝子攪乱と保全	津村義彦 (筑波大学)	
8	6/8	講義	里山の機能と持続的利用	門脇正史 (筑波大学)	
9	6/15	講義	水の世紀: 緑のダムと青の革命	山中勤 (筑波大学)	
10	6/22	講義	山国日本: 恵みをもたらす豊かな自然とその変調	廣田 充 (筑波大学)	
			講義に関するレポートを課し、評価、単位認定		

三菱UFJ環境財団寄附講義(2018年度～2020年度)

② 「環境変動影響と持続可能社会構築の科学技術論」

総合科目Ⅲ (全学3・4年次対象) 1単位 秋学期ABモジュール 金曜3時限 (12:15-13:30)

回	日付	形態	内容	担当	備考
1	2018年 10/5	講義	寄附講義科目受講のための総合ガイダンス	鈴木石根 白岩善博・ (筑波大学)	総合コーディネーター
2	10/12	講義	地球環境変動の生物影響—CO ₂ 濃度	白岩善博 (筑波大学)	
3	10/19	講義	地球環境変動の生物影響—温度	鈴木石根 (筑波大学)	
4	10/26	講義	地球環境変動の生物影響—有害元素・放射線	古川 純 (筑波大学)	
5	10/31	講義	地球環境変動と生物進化:生物多様性の創出	石田健一郎 (筑波大学)	
6	11/9	講義	持続可能社会構築の課題解決科学技術論—再生可能エネルギー概論	鈴木石根 (筑波大学)	
7	11/16	講義	持続可能社会構築の課題解決科学技術論—バイオマス・エネルギー	中嶋光敏 (筑波大学)	
8	11/20	講義	持続可能社会構築の課題解決科学技術論—食料	三浦謙治 (筑波大学)	
9	12/7	講義	持続可能社会構築の課題解決科学技術論—湖沼	松下文経 (筑波大学)	
10	12/14	講義	持続可能社会構築の課題解決科学技術論—地下水	辻村真貴 (筑波大学)	
			講義に関するレポートを課し、評価、単位認定		

※10/31(水)及び11/20(火)は金曜日授業の曜日振替え

③「生命環境科学実習A」

総合科目Ⅲ（全学3・4年次対象）1単位 春学期Cモジュール 集中

・受講対象者：全学講義「総合科目Ⅲ」三菱UFJ環境財団寄附講義の受講者

・受講条件：実習A（実験）と実習B（研修）の両方の受講は基本的に認めない。ただし、定員に満たない場合は認めるので、応募に際しては、優先順位を明記すること。

実施日	形態	内容	担当	備考
集中	実験 実習	生命環境科学実習A 内容：海と山の環境学	田中健太、 和田茂樹他 (筑波大学)	定員上限：10名

④「生命環境科学実習B」

総合科目Ⅲ（全学3・4年次対象）1単位 秋学期Cモジュール 集中

・受講対象者：全学講義「総合科目Ⅲ」三菱UFJ環境財団寄附講義の受講者

・受講条件：実習A（実験）と実習B（研修）の両方の受講は基本的に認めない。ただし、定員に満たない場合は認めるので、応募に際しては、優先順位を明記すること。

実施日	形態	内容	担当	備考
集中	研修	生命環境科学実習B 国内研修プログラム： 内容：環境科学研究機関・施設研修（研究施設視察、特別セミナー）	鈴木石根・白 岩善博他（筑 波大学）	定員上限：10名・TA配置、バス移動
		海外研修プログラム： 内容：海外の自然遺産、自然観察フィード、海洋・海洋生物学の研究機関、極地研究機関などから選択して見学・研修を実施する。	鈴木石根・白 岩善博他（筑 波大学）	定員上限：5名。（海外研究機関、フィールド実験・研究センターなどと連携する）

科目外企画

単位なし・費用支援あり

①「国際シンポジウム」(公開)(英語)

- ・本寄附講義受講生、筑波大学の学生、一般市民を対象とする「三菱UFJ環境財団寄附講義 国際シンポジウム」(英語)を実施する(主催もしくは後援)。
- ・地球規模課題と国際社会など、講義、実習テーマの関連課題を中心に、学術的、社会的重要性のあるテーマを設定し、海外招待講演者、国内招待講演者、筑波大学教員によるシンポジウムとする。パネル討論などを積極的に取り入れ、国内外の研究者による密な議論を展開し、単なる講演会とならないように工夫する。

②「国内シンポジウム」(公開)(日本語)

- ・本寄附講義受講生、筑波大学の学生、一般市民を対象とする。
- ・地球規模課題と国際社会など、講義、実習テーマの関連課題を中心に、学術的、社会的重要性のあるテーマを設定し、環境重要課題の社会への広報や重要性、緊急性などをアピールする。

③ 公開フォーラム

- ・「三菱UFJ環境財団寄附講義」の受講生に対して、筑波大学・筑波研究学園都市協議会・つくば市主催の「つくば3E(環境・エネルギー・経済)フォーラム」及び「サイエンスツアー」(例年1月～2月に実施)への参加を推奨し、社会との連携を体験させ、その有効性や効果を実感させる。